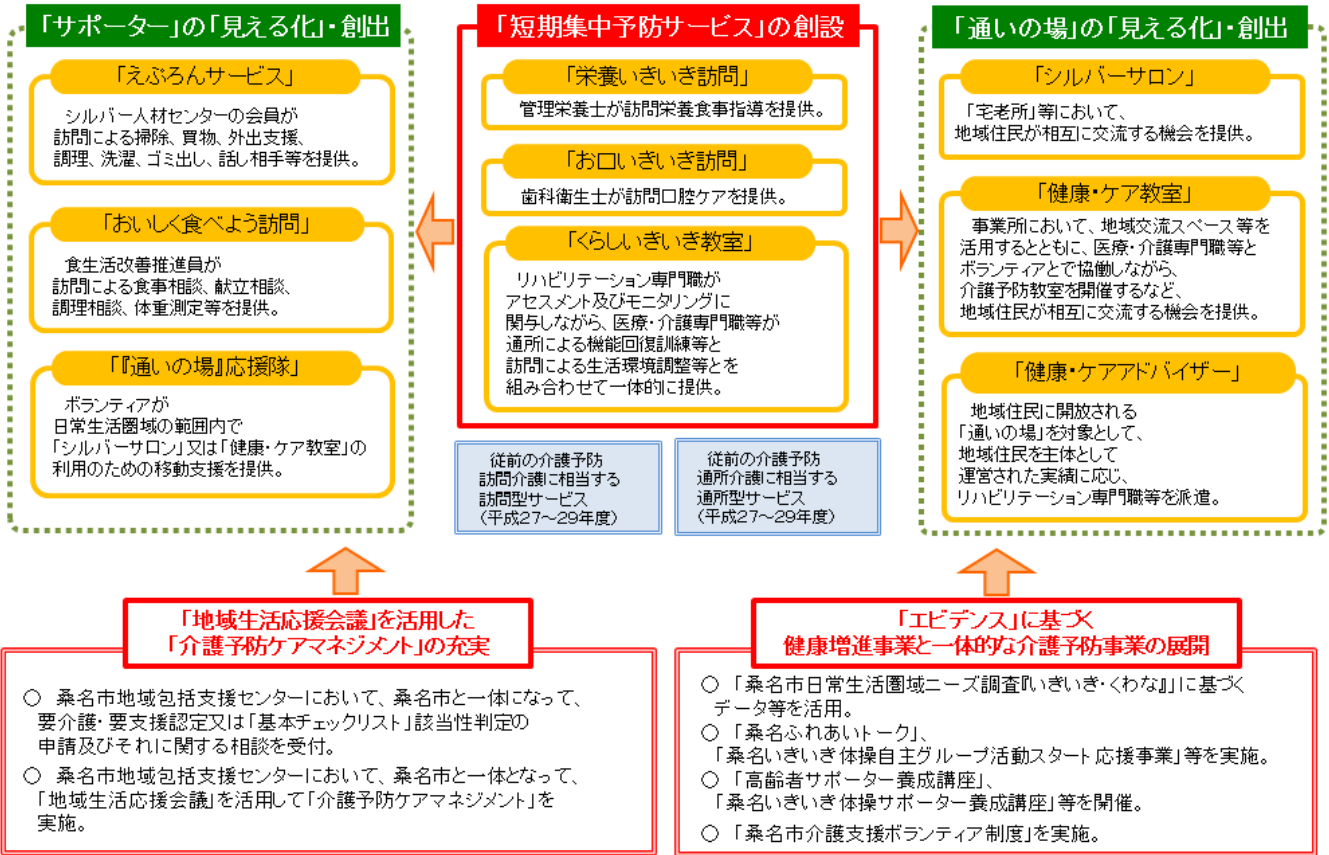


## 介護予防・日常生活支援総合事業に関する 普及啓発の取組みについて（平成 28 年度）

時 期	取組み内容
通 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活応援会議において、介護予防・日常生活支援総合事業（以下、「総合事業」）の各サービスの紹介。</li> </ul>
通 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「桑名ふれあいトーク」にて総合事業を紹介。 ⇒ 小山ことぶき会、益世地区人権啓発推進会、桑名中央ローターリークラブ、シニアカレッジくわな、柚井ふれあいサロン、明正地区民生委員児童委員協議会において開催。延べ 201 名が参加。</li> </ul>
平成 28 年 6 月・7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度桑名市地域包括支援センター研修会「エリアフリーケアマネジャー交流会」において総合事業を周知。 ⇒ 地域包括支援センター主任ケアマネ部会主催により、ケアマネジャーを対象に各地域包括支援センターの圏域 5 ヶ所で開催。延べ 107 名が参加。</li> </ul>
平成 28 年 6 月・7 月・9 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報くわなの特集「地域包括ケアシステム」において、総合事業の「くらしいきいき教室」、「健康・ケア教室」、「栄養いきいき訪問」及び「えぷろんサービス」を紹介。</li> </ul>
平成 28 年 9 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度桑名市介護予防・日常生活支援総合事業説明会を開催。 ⇒ ケアマネジャーを対象に開催し、113 名が参加。説明会では、平成 28 年 10 月より新たに「くらしいきいき教室」を開始する 2 事業所（クオ、リハビリデイサービス nagomi 桑名店）の紹介、また既存の「くらしいきいき教室」事業所より事例発表、このほか総合事業全般に関する行政説明が行われた。</li> </ul>
平成 28 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「桑名市くらしいきいき教室に係る元気アップ交付金」交付式を開催。 ⇒ 「くらしいきいき教室」終了後、地域でお元気に過ごされて一定期間介護保険サービスを必要としなかった方に交付する「元気アップ交付金」を初めて交付するにあたり、ご本人、「くらしいきいき教室」事業所、ケアマネジャーが出席し、交付式を開催。 (裏面に新聞掲載記事)</li> </ul>

# 桑名市の「介護予防・日常生活支援総合事業」



## 【参考】「桑名市くらしいきいき教室に係る元気アップ交付金」 交付式に関する掲載記事

○中日新聞朝刊（平成28年10月30日）記事

2016年(平成28年)10月30日(日曜日) 北勢 22

### 高齢者の社会復帰後押し

#### 桑名市「元気アップ」交付金

要支援の判定を受けた高齢者の社会復帰を後押しする桑名市の「元気アップ交付金」の支給式が、市役所であった。昨年七月の制度開始から初の支給例で、高齢者とケアマネジメント事業所、福祉事業所に規定額が贈られた。

（遠藤康訓）

元気アップ交付金は、けがや持病などで介護サービスが必要になった高齢者と、サービスに携わった事業者を対象にする。六カ月間の通所、訪問介護サービス「くらしいきいき教室」を経て介護保険を卒業し、自立した生活を取り戻すと、市が本人に二千元、ケアマネジメント事業所に三千元、利用した福祉

事業所に一万八千円を支給する。

式には佐藤薫さん（みこ）、花井ひな子さん（なつ）と関わったケアマネジャー、福祉事業所の担当者らが出席した。福祉事業所の職員は「私たちの骨折により「要支援も幸せになれる制度」の判定を受けたが、筋力強化訓練や栄養指導を受け、つらさを使って歩ける程度に回復した。「狼とイ十八人」。

市によると九月二十

「元気アップ交付金を受けた高齢者、ケアマネジャー、福祉事業所の関係者ら」桑名市役所で

ノシシにやられたが、何とか取れた」と自家製ミカンを持参して振る舞った。

伊藤徳宇市長は「今の介護保険制度は、高齢者の状態が悪くなるとみなが利益が出る仕組みになっていて疑問。高齢者が元気になってやりたいことをできるようにするよう、日本で初めての仕組みをつくらせたい」と制度の目的を説明した。福祉事業所の職員は「私たちの骨折により「要支援も幸せになれる制度」の判定を受けたが、筋力強化訓練や栄養指導を受け、つらさを使って歩ける程度に回復した。「狼とイ十八人」。